



NO.1406

3月12日号

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四四三、四四五八
F 四三、四四五七

網走市議会第1回定例会

新たな条例で個人情報情報は守れるか

3月6日、総務経済委員会に付託された水道料金減免事業の負担金などの補正予算や個人情報保護条例などの条例改正について審査されました。

水道料金減免については、松浦議員が昨年12月議会で、物価高騰対策として有効だと市に求めていたものです。

個人情報保護法施行条例に反対

網走市は、国の進めるデジタル化に合わせて、個人情報保護条例を廃止し、個人情報保護法施行条例を提案しました。



村椿委員は、今までの条例が「個人の権利利益の保護」を目的としていたのが、「条例で定めることができる必要事項を定める」となっている事を指摘し、加工情報といえども個人情報本人の知らない間に民間に渡される事を指摘しました。

市は、「加工情報を民間に提供できるようになったが、網走市は努力義務。運用にあたっては慎重に対処していきたい」と述べました。村椿議員は、「個人の権利利益の保護」より情報の利活用が変わってしまったことから、この条例の制定には反対する態度表明しました。

匿名加工情報 特定の個人を識別することができないように個人情報を加工したもので、当該個人情報を復元できないようにした情報のこと。

補正予算の概要

項目	内容	補正額
水道料金減免事業の負担金	物価高騰への支援、4月5月分の水道基本料金(2ヶ月で約3000円)を減免。	5,663万円
事業継続支援金給付事業	道の事業継続支援金に1事業者あたり10万円の上乗せ	2,000万円
肥料価格高騰支援金事業	1200円/トを上乗せする。国道市で高騰分の8割を支援。	2,112万円
ふるさと寄附金積立金	寄附金が約2億円増える見込み。2月末214億5585万円	1億円

これでいいの？大軍拡！④

医療費ゼロにできるのに

大軍拡の5兆円があれば、公的医療負担(1~3割)をほぼゼロにできます。つまり、国民みんながゼロに近い金額で病院にかかれるということです!! 医療費負担を増やして、軍事費にまわすなんて、これでいいの？国民の命、守ってください。



の状況、ふるさと寄附、流水館の状況、介護施設の入居状況、市の除雪体制、高齢者除雪などについて事前に調査しています。

流水館については、10月1日から1人2000円を上げる予算となっています。コロナ禍で料金収入が減っているのは分かりますが、1月にリニューアルしたばかりで、入館者数は昨年を上回り、コロナ以前よりも伸びている状況です。何故、料金を上げるのか。5年ごとにリニューアルするための資金をつくらなければならないが、もっと入館者数を増やすことをもっと検討すべきです。小中学生が300円だったのが500円では高すぎて1度だけしか見なくなっています。利用しやすい料金で何度も訪れ、温暖化防止を考える施設にすべきです。

村椿議員の



来週から令和5年度予算の審査が始まります。審査にあたり、どこバスの

物価高騰も



第1回定例会も今週は、令和4年度の補正予算案と条例改正案の審査が7日に行われました。今期、最後の委員会審査のため、過去に提出されていた請願・陳情・要請など全てについて合計35本の審査を改めて行いました。2本は請願者から取り下げ願いが提出されました。中でも学校給食に関わる請願が10本あり、関心の強さが分かります。そういう市民の願いが給食の無償化につながったと感じました。多くの請願・陳情は継続審査になり、4月の任期切れに伴い廃案となります。9日の本会議に委員会審査結果を報告しますが、22日が委員長としての最後の仕事になる予定です。

2年間にわたり常任委員会の委員長を務めてきました。少数会派の私が委員長を務めることは、何かと制限があるため歯がゆい思いをすることも多々ありましたが、副委員長をはじめ委員各位のご協力の下、無事に務めることができました。議員各位と理事者のご協力に感謝しています。

流水

3・8国際女性デー「ライフプラン教育」についてのお話し会。3月5日、参加11名。2グループに分かれての話し合い。「ライフプラン教育って何?」。安倍政権のもとで少子化対策の一環としてスタート。その先駆けとなったのが「女性手帳」2013年、少子化対策として、妊娠・出産は早めの計画をよびかけるもので、若い女性に一齐に配布すると発表された。しかし「国が個人の人生の選択に口を挟むべきではない」と批判が殺到。「女性手帳」の配布は断念したものの、同様の啓発を学校現場に持ち込んだ。これが「ライフプラン教育」だ。▼会の参加者からは、「教育費を考えると何人も産めない」「子育て中は、保育園の待機児が問題で安心して働けない」、若いママさんからは「家庭の中で、子育て家事は平等ではないと感じる」「10代が妊娠適齢期というのは、心と身体のバランス、経済面でも心配、そして将来の選択も狭められる」。また、家庭科を男女共に学び、家事の手順を実施した経験なども語られ、自らの子育ては間違いはなかったと再確認される人も。今、「子ども予算倍増」が求められる。



すみっこ